

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201054		
法人名	(有)豊石介護センター		
事業所名	グループホーム親孝行 ユニット名 Y棟		
所在地	宮城県石巻市須江字沢尻55番地		
自己評価作成日	令和2年11月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和2年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が健康で過ごせるよう体調の変化などに気を配り、変化があった場合は主治医に相談し適切な指示を頂き対応を心掛けています。例年は地域の方々保育園・小中学校との交流をしているが、現在コロナ感染予防の為自粛しています。落ち着いたら交流を再開できるよう願っています。現在外出も自粛している為、敬老会などは折詰弁当を頂きお祝いしたり、羊煮会など室内でのレクリエーションをおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR仙石線の石巻あゆみの駅から車で約10分程の、のどかな田園風景が広がる静かな環境の中に、「グループホーム親孝行」がある。今年から掲げた理念の「気づき」が、入居者のケアや家族への対応のみならず、職員間での気配りや思いやりに繋がっている。全職員に、ケアマネジャー資格の取得を目指すよう向上心や意欲を持ち、入居者の思いに応えるケアに取り組んでいる。開設して17年目を迎え、地域住民とは顔馴染みで散歩や外出の際には、挨拶を交わしている。近隣の中学校や小学校、保育所との交流が活発で、地域に密着したホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム親孝行)「ユニット名 Y棟 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念については常に目の届く場所に掲げ、目標に【きづき】を追加し、理解しすぐに実践できるようにしました	職員と話し合い、今年は「気づき」をホームの理念とした。気づきを意識し、入居者の思いを受け止めるケアに努めている。入居者や家族と接する時等、あらゆる場面で必要なので、当面の間掲げることにした。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年だと地域行事や奉仕活動、保育所・小学校の交流がありましたがコロナ感染予防の為に自粛している。	地域の老人クラブへの参加、小学生の介護体験での来訪、中学校へ出向いての介護実習等を行っていたが、コロナ禍で中止した。月1回の地域の会館清掃に職員2名が参加して、地域との繋がりを継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染予防の為、例年参加していた地域高齢者の方々の集会は実施していない			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	推進会議はコロナ感染予防の為実施していないが、書類や活動内容の写真を推進委員の方に送付し、意見を頂いている。	奇数月に地域包括職員、民生委員、家族、地域住民が参加して行っていた。3月からは活動内容の書類や返信用封筒を送付している。家族から、励ましの言葉が寄せられた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が実施する集団指導はコロナ感染予防の為現在実施していないが疑問点は直接、市役所の担当者に伺い丁寧に指導を受けている。	認知症や介護等の内容で、年1回集団指導が開催されていたが、今年は認知症についての研修資料が送られてきた。管理者の変更届けやその他の書類は直接届けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等での内部研修(勉強会)を実践している。外部での研修会はコロナ感染予防の為自粛。身体拘束についてきちんと判断し、介護員の倫理観を高めるような話し合いをしている。	内部研修と資料の配布で、職員の理解が深まった。ホーム外の敷地に出た時は、すぐに連れ戻さず、散歩に繋げている。ベッドから落下の危険性がある方は、家族の了解を得て、ベッド柵とセンサーを使用している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こる要因、虐待の背景にあるものをきちんと理解できる様、勉強会等で学び、また職員が安定した精神状態を保てるよう、職員同士で声掛けをして現在何が問題なのかを確認している。	高齢者虐待関連法は、配布した資料で学んだ。職員が気付かずに行った時は、注意し合っている。職員の疲労等がケアに影響しないように、管理者が出勤時に職員と顔を合わせ、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	例年は社会福祉士を講師として招き、資格取得に向けた勉強会を行ってあるが、コロナ感染予防の為招くことはできないが、プリントなどを行い学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族が来訪した際、積極的に会話できる関係を築くため、挨拶や話す内容を指導している。また、家族が不明に思う点については明確に説明している。特に話し易い雰囲気を作るよう皆で意見を出し合っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した際、必ず状況について報告し、また家族の意見・要望を聞き、支援及び改善したことを運営に反映している。	季節毎に写真入りの、「笑顔だより楽しく」を送付している。家族から訪問マッサージの紹介があり、入居者2名が利用し、効果があると好評である。面会の希望があり、リモート等を検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見交換し問題点を職員同士で確認し、特に職員が自分の思いを伝えられる風土を根付かせるよう努力している。	職員から立ち上がり困難な入居者に、手摺りのしっかりした電動ベッドの提案があり、使用に繋がった。全職員がケアマネジャー資格を取得できるように、時間や情報、費用を支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいをもって介護できるように環境を整え、また「働き方改革」に取り組み、より良い環境を構築したいと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加は現在コロナ感染予防の為自粛している。定期的な内部研修(勉強会)のみを行い、介護の仕事継続していくモチベーションを維持できるよう指導している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の為現在は自粛しているが落ち着いたら交流したいと思います。	法人の訪問入浴の職員が、週1回来ている。入居者の状況確認やバイタルチェック等、入浴に関して知識を得ることができた。今後、交換研修を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より趣味や好み等の情報収集した上で、不安を取り除き安心できる関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入前には確実な情報を掴み、不安の要因は何か、柔らかな言葉遣いを心掛け、安心して話ができる環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族に真摯に向き合い、今何が必要かを話し合いの中で得た情報に基づき、適切な判断をして必要に応じた支援をしていく。また、他のサービス(訪問マッサージ等)への紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の思いが一方通行にならないような配慮をし、その人の持つ残存能力を生かし、日常において食器拭きや洗濯たみなどを一緒に行う共同作業において連帯感を深め、共に生活していく関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族が共に過ごせる機会を多く持ち、職員は常日頃から家族に対して適切な対応をするよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の親しい方や、好きな事などを家族より情報収集し、その思いが叶うような配慮をしているが現在はコロナ感染予防の為知人の来訪は窓越しでの面会のみにして頂いております。	コロナ禍で窓越しでの面会だが、時間制限が無く声も聞こえるので、入居者も家族も喜んでいる。家族の馴染みの店を紹介してもらい、意気投合した入居者同士で食事をした。近くの保育園の遊戯会を楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者の性格や嗜好等を把握し利用者同士の関係を尊重した対応をしていく。実際気の合った者同士楽しく過ごすために本人の好きな編み物や歌などを歌い過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の状況を常に把握し、その状況に応じた適切な判断をする。そして必要とする各機関への連絡、調整をし、主治医と相談しながら医療機関などへの情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・要望を言える様、日々会話の機会を増やし、困難な場合は家族と相談している。	入居者との会話から要望を聞き、週1回の入居者の好みのメニューを取り入れた。和裁をしていた方に、針や糸等を用意した。言葉が出難い方は、表情や身振り手振り等から、思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・家族から過去の生活状況を聞き取り、特に好きなことや習慣化していることなどを把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の個別の状態や残存能力などを把握し、医療的な面については主治医と相談し、個別に支援し健康状態を重要課題としている。また日常に於いての変化などを観察していく。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人を交えた話し合いや家族からの情報等様々な角度から検討し、現状に即した介護計画を作成している。特に医療面での課題が多くなり主治医の意見も取り入れている。	主治医の意見も取り入れて、3か月に1度見直している。家族から「皆と楽しく過ごして欲しい」との意向があり、会話とレクリエーション参加を援助内容に入れ、活動量を維持できることを目標にした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活について個別に記録し、必要により職員間で情報交換をしている。そして今何が必要なのか検討し、さらに実践した上で介護計画の見直しに活かしている。また必要に応じて家族に連絡し支援内容に理解をいただいている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族にとって今必要な事は何かを常に意識して介護支援する事により、気づき生まれ、その都度職員間で話し合い、そこから柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や保育園・小中学校との交流会を定期的実施していたがコロナ感染予防の為現在自粛している。利用者が楽しみにしている為落ち着いたら再開したいです。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望しているかかりつけ医師を受診したり、利用者・家族の希望により訪問診療に切り替え、利用者の状態変化に応じ主治医相談し迅速な対応ができるようにしている。	月1回数名の入居者が訪問診療である。その他はかかりつけ医を通院し、家族が同行している。職員に看護師がおり、急変時は相談してから受診している。3名が訪問歯科を利用している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の看護師が主治医と連携を図り、迅速な対応ができるようにしている。また、必要に応じ医療の基本的な知識についても指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院については家族と主治医の話し合いで決める。また、入院中は状態の把握に努め、家族の意向を理解した上で、病院の医療連携室の相談員と積極的に相談し、連携を図っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じ主治医と家族の話し合いで、家族の意向を尊重し、事業所・主治医が一体となりチームケアをしている。	現在は看取りをしない方向での指針がある。同意書、意思確認書は今後作成し、関係者間で共有できるよう検討したいとしている。ホームで看取りを経験した職員がいないので、看護師による勉強会を必要としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を定期的実施すると共に看護職員の指導の下、応急処置や初期対応について説明を受け実践し対応力を高めている。また、常日頃から急変時に落ち着いて対応できるよう日常会話にも取り入れている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練(地域の方も参加)の内、1回は消防署立ち合いで行っていたがコロナ感染予防の為今年中止となる。今年ホーム内で避難経路の確認を行う。	月毎に防災計画予定があり、非常食や飲料水の確認などテーマごとに実施している。夜間想定を含め、年2回地域住民も参加して、防災訓練を行っている。職員から「消火器の使い方を忘れていた」等の反省があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援する際は口調・対応が強制的、一方的にならないようにし、不適切な言動行動がみられた場合は職員間で注意し合い、常に敬う気持ちを忘れないようにしている。また、プライバシーを守ることに同様の配慮をしている。	呼び方はさん付けだが、本人の希望でちゃん付けの方もいる。食事の時間は要望があれば、応じている。入居者同士の相性を見極めて、リビングの席替えをし、トラブルを回避している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人が話しやすい環境を作るため積極的に声掛けし、コミュニケーションを図っている。また本人の希望を聞き取り(場合により家族から聞き取り)それを実現できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いや生活ペースを理解し尊重することを優先し、入浴など本人の意向に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿って訪問理容を利用している。また、本人の衣類についても好みを家族に聞き取り本人が少しでも満足できるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常日頃からその季節によって利用者自身が食べたいものを提案しセレクトメニューとして提供している。また、食事後は食器拭きなど利用者と職員が一緒に行っている。	食事担当の職員が献立を作成し、入居者の好みや量等を把握している。週1回のセレクトメニューでは、刺身の希望が多い。月1回の行事食の時は、目先が変わり入居者の食欲が増す。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の意見を聞き、個人の状態に合わせた食事形態や量等の工夫をしている。また、水分及び食事摂取量を記録し体調管理に反映している。また、体調変化により主治医に相談し、早めに対応し悪化させないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行い、その都度口腔内の観察をし、異常があれば主治医に報告し、適切な指示を受けている。また必要に応じて訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを記録し、職員同士情報を共有し、定期的な誘導や声掛けを行い、可能な限り自力でできるよう促している。	日中自立している方は9人で、オムツ使用は5人である。失敗した時は、「部屋でテレビ見よう」等と居室に誘導し、交換している。夜間は睡眠を重視し、時間的な声掛けはしていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については日々排泄確認を行い記録している。そして水分摂取や運動を促し、個人の状態に合わせ必要に応じ主治医に報告し、指示を仰ぎ、下剤・坐薬などを使用している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の入浴希望日や時間帯を聞き、週2回行っている。また、全介助の方には職員2名で一般浴を実施している。	浴室、脱衣所は床暖房である。重度の方の2人介助で、浴槽に入ることができる。拒否の方は無理強いせず、職員が交互に穏やかに声がけし、入浴に繋げている。シャンプー等は各自好みの物を使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣や状況に応じてベットまたは畳を選択できるように支援している。また、利用者様の身体状態に応じて電動ベットやエアーマットを利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬内容表のファイル・薬手帳を活用し、副作用・用法が確認できるようにしている。また、与薬後は経過観察し異常があれば主治医に連絡し指示を仰ぎ、状態が改善するまで主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月一回利用者との話し合いを行い、希望する献立やしたい事等を聞き取り、楽しみを心待ちするような状況を作っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年は個人の希望を聞き取りドライブレク・食事レクなど季節に応じ計画している。現在はコロナ感染予防の為自粛しているが、落ち着いたら可能な限りまた楽しんでいただきたいと思う。	例年は週1回ドライブ、月1回外食を行っていたが、コロナ禍で自粛している。4月に車の中から桜を眺め、花見を楽しんだ。天気の良い時にベランダに出て、日光浴をしながら外の空気を吸い気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は職員が管理し、本人が購入を希望された際に使用できるようにしている。また、小遣い帳に金額を記入し家族が定期的に確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話の希望があった際、家族了承の上、通話支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるようエアコンや空気清浄機・加湿器等を使用して室温を調整している。また、四季折々の壁飾り等利用者と職員が協力して作品を掲示して季節感を出し室内ではあるが四季を堪能できるようにしている。	ホーム内は床暖房である。空気清浄器と加湿器がある。リビングに入居者と職員で飾り付けた、クリスマスツリーがある。入居者の習字が壁に飾ってある。訪問時、リビングから入居者の元気な歌声と笑い声が聞えていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼休みや体調不良時等、本人希望の際は自室にて過ごせるよう支援している。また、リビングでは皆で歌ったり、軽運動などをして気分転換を図っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活する上で不自由がないよう、家具の配置を変えたり、立ち上がりが困難な方には手すりのしっかりした電動ベッドの使用等を提案している。また、家族との写真を壁に飾っている。	冷暖房完備で、ベッドとクローゼットが備え付けである。ほとんどの入居者が、家族の写真を飾っている。動物のぬいぐるみに名前を付けて呼び、ベッドの脇等に置き過ごしている方がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状態に応じて手引き歩行や自走型の車イスの使用等で移動時見守りを行っている。また、状況によりリビングのテーブル席の配置替えも行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201054		
法人名	(有)豊石介護センター		
事業所名	グループホーム親孝行	ユニット名	B棟
所在地	宮城県石巻市須江字沢尻55番地		
自己評価作成日	令和2年11月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和2年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が健康で過ごせるよう体調の変化などに気を配り、変化があった場合は主治医に相談し適切な指示を頂き対応を心掛けています。例年は地域の方々保育園・小中学校との交流をしているが、現在コロナ感染予防の為自粛しています。落ち着いたら交流を再開できるよう願っています。現在外出も自粛している為、敬老会などは折詰弁当を頂きお祝いしたり、羊煮会など室内でのレクリエーションをおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR仙石線の石巻あゆみの駅から車で約10分程の、のどかな田園風景が広がる静かな環境の中に、「グループホーム親孝行」がある。今年から掲げた理念の「気づき」が、入居者のケアや家族への対応のみならず、職員間での気配りや思いやりに繋がっている。全職員に、ケアマネジャー資格の取得を目指すよう向上心や意欲を持ち、入居者の思いに応えるケアに取り組んでいる。開設して17年目を迎え、地域住民とは顔馴染みで散歩や外出の際には、挨拶を交わしている。近隣の中学校や小学校、保育所との交流が活発で、地域に密着したホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム親孝行)「ユニット名 B棟 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念については常に目の届く場所に掲げ、目標に【きづき】を追加し、理解しすぐに実践できるようにしました	職員と話し合い、今年は「気づき」をホームの理念とした。気づきを意識し、入居者の思いを受け止めるケアに努めている。入居者や家族と接する時等、あらゆる場面で必要なので、当面の間掲げることにした。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年だと地域行事や奉仕活動、保育所・小学校の交流がありましたがコロナ感染予防の為に自粛している。	地域の老人クラブへの参加、小学生の介護体験での来訪、中学校へ出向いての介護実習等を行っていたが、コロナ禍で中止した。月1回の地域の会館清掃に職員2名が参加して、地域との繋がりを継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染予防の為、例年参加していた地域高齢者の方々の集会は実施していない			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	推進会議はコロナ感染予防の為実施していないが、書類や活動内容の写真を推進委員の方に送付し、意見を頂いている。	奇数月に地域包括職員、民生委員、家族、地域住民が参加して行っていた。3月からは活動内容の書類や返信用封筒を送付している。家族から、励ましの言葉が寄せられた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が実施する集団指導はコロナ感染予防の為現在実施していないが疑問点は直接、市役所の担当者に伺い丁寧に指導を受けている。	認知症や介護等の内容で、年1回集団指導が開催されていたが、今年は認知症についての研修資料が送られてきた。管理者の変更届けやその他の書類は直接届けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等での内部研修(勉強会)を実践している。外部での研修会はコロナ感染予防の為自粛。身体拘束についてきちんと判断し、介護員の倫理観を高めるような話し合いをしている。	内部研修と資料の配布で、職員の理解が深まった。ホーム外の敷地に出た時は、すぐに連れ戻さず、散歩に繋げている。ベッドから落下の危険性がある方は、家族の了解を得て、ベッド柵とセンサーを使用している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こる要因、虐待の背景にあるものをきちんと理解できる様、勉強会等で学び、また職員が安定した精神状態を保てるよう、職員同士で声掛けをして現在何が問題なのかを確認している。	高齢者虐待関連法は、配布した資料で学んだ。職員が気付かずに行った時は、注意し合っている。職員の疲労等がケアに影響しないように、管理者が出勤時に職員と顔を合わせ、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	例年は社会福祉士を講師として招き、資格取得に向けた勉強会を行ってあるが、コロナ感染予防の為招くことはできないが、プリントなどを行い学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族が来訪した際、積極的に会話できる関係を築くため、挨拶や話す内容を指導している。また、家族が不明に思う点については明確に説明している。特に話し易い雰囲気を作るよう皆で意見を出し合っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した際、必ず状況について報告し、また家族の意見・要望を聞き、支援及び改善したことを運営に反映している。	季節毎に写真入りの、「笑顔だより楽しく」を送付している。家族から訪問マッサージの紹介があり、入居者2名が利用し、効果があると好評である。面会の希望があり、リモート等を検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見交換し問題点を職員同士で確認し、特に職員が自分の思いを伝えられる風土を根付かせるよう努力している。	職員から立ち上がり困難な入居者に、手摺りのしっかりした電動ベッドの提案があり、使用に繋がった。全職員がケアマネジャー資格を取得できるように、時間や情報、費用を支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいをもって介護できるように環境を整え、また「働き方改革」に取り組み、より良い環境を構築したいと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加は現在コロナ感染予防の為自粛している。定期的な内部研修(勉強会)のみを行い、介護の仕事継続していくモチベーションを維持できるよう指導している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の為現在は自粛しているが落ち着いたら交流したいと思います。	法人の訪問入浴の職員が、週1回来ている。入居者の状況確認やバイタルチェック等、入浴に関して知識を得ることができた。今後、交換研修を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より趣味や好み等の情報収集した上で、不安を取り除き安心できる関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入前には確実な情報を掴み、不安の要因は何か、柔らかな言葉遣いを心掛け、安心して話ができる環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族に真摯に向き合い、今何が必要かを話し合いの中で得た情報に基づき、適切な判断をして必要に応じた支援をしていく。また、他のサービス(訪問マッサージ等)への紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の思いが一方通行にならないような配慮をし、その人の持つ残存能力を生かし、日常において食器拭きや洗濯たみなどを一緒に行う共同作業において連帯感を深め、共に生活していく関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族が共に過ごせる機会を多く持ち、職員は常日頃から家族に対して適切な対応をするよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の親しい方や、好きな事などを家族より情報収集し、その思いが叶うような配慮をしているが現在はコロナ感染予防の為知人の来訪は窓越しでの面会のみにして頂いております。	コロナ禍で窓越しでの面会だが、時間制限が無く声も聞こえるので、入居者も家族も喜んでいる。家族の馴染みの店を紹介してもらい、意気投合した入居者同士で食事をした。近くの保育園の遊戯会を楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の生活の中で利用者の性格や嗜好等を把握し利用者同士の関係を尊重した対応をしていく。実際気の合った者同士楽しく過ごすために本人の好きな編み物や歌などを歌い過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の状況を常に把握し、その状況に応じた適切な判断をする。そして必要とする各機関への連絡、調整をし、主治医と相談しながら医療機関などへの情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・要望を言える様、日々会話の機会を増やし、困難な場合は家族と相談している。	入居者との会話から要望を聞き、週1回の入居者の好みのメニューを取り入れた。和裁をしていた方に、針や糸等を用意した。言葉が出難い方は、表情や身振り手振り等から、思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・家族から過去の生活状況を聞き取り、特に好きなことや習慣化していることなどを把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の個別の状態や残存能力などを把握し、医療的な面については主治医と相談し、個別に支援し健康状態を重要課題としている。また日常に於いての変化などを観察していく。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人を交えた話し合いや家族からの情報等様々な角度から検討し、現状に即した介護計画を作成している。特に医療面での課題が多くなり主治医の意見も取り入れている。	主治医の意見も取り入れて、3か月に1度見直している。家族から「皆と楽しく過ごして欲しい」との意向があり、会話とレクリエーション参加を援助内容に入れ、活動量を維持できることを目標にした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活について個別に記録し、必要により職員間で情報交換をしている。そして今何が必要なのか検討し、さらに実践した上で介護計画の見直しに活かしている。また必要に応じて家族に連絡し支援内容に理解をいただいている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族にとって今必要な事は何かを常に意識して介護支援する事により、気づき生まれ、その都度職員間で話し合い、そこから柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や保育園・小中学校との交流会を定期的に実施していたがコロナ感染予防の為に現在自粛している。利用者が楽しみにしている為落ち着いたら再開したいです。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望しているかかりつけ医師を受診したり、利用者・家族の希望により訪問診療に切り替え、利用者の状態変化に応じ主治医相談し迅速な対応ができるようにしている。	月1回数名の入居者が訪問診療である。その他はかかりつけ医を通院し、家族が同行している。職員に看護師がおり、急変時は相談してから受診している。3名が訪問歯科を利用している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の看護師が主治医と連携を図り、迅速な対応ができるようにしている。また、必要に応じ医療の基本的な知識についても指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院については家族と主治医の話し合いで決める。また、入院中は状態の把握に努め、家族の意向を理解した上で、病院の医療連携室の相談員と積極的に相談し、連携を図っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じ主治医と家族の話し合いで、家族の意向を尊重し、事業所・主治医が一体となりチームケアをしている。	現在は看取りをしない方向での指針がある。同意書、意思確認書は今後作成し、関係者間で共有できるよう検討したいとしている。ホームで看取りを経験した職員がいないので、看護師による勉強会を必要としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を定期的実施すると共に看護職員の指導の下、応急処置や初期対応について説明を受け実践し対応力を高めている。また、常日頃から急変時に落ち着いて対応できるよう日常会話にも取り入れている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練(地域の方も参加)の内、1回は消防署立ち合いで行っていたがコロナ感染予防の為今年中止となる。今年ホーム内で避難経路の確認を行う。	月毎に防災計画予定があり、非常食や飲料水の確認などテーマごとに実施している。夜間想定を含め、年2回地域住民も参加して、防災訓練を行っている。職員から「消火器の使い方を忘れていた」等の反省があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援する際は口調・対応が強制的、一方的にならないようにし、不適切な言動行動がみられた場合は職員間で注意し合い、常に敬う気持ちを忘れないようにしている。また、プライバシーを守ることに同様の配慮をしている。	呼び方はさん付けだが、本人の希望でちゃん付けの方もいる。食事の時間は要望があれば、応じている。入居者同士の相性を見極めて、リビングの席替えをし、トラブルを回避している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人が話しやすい環境を作るため積極的に声掛けし、コミュニケーションを図っている。また本人の希望を聞き取り(場合により家族から聞き取り)それを実現できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いや生活ペースを理解し尊重することを優先し、入浴など本人の意向に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿って訪問理容を利用している。また、本人の衣類についても好みを家族に聞き取り本人が少しでも満足できるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常日頃からその季節によって利用者自身が食べたいものを提案しセレクトメニューとして提供している。また、食事後は食器拭きなど利用者と職員が一緒に行っている。	食事担当の職員が献立を作成し、入居者の好みや量等を把握している。週1回のセレクトメニューでは、刺身の希望が多い。月1回の行事食の時は、目先が変わり入居者の食欲が増す。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の意見を聞き、個人の状態に合わせた食事形態や量等の工夫をしている。また、水分及び食事摂取量を記録し体調管理に反映している。また、体調変化により主治医に相談し、早めに対応し悪化させないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行い、その都度口腔内の観察をし、異常があれば主治医に報告し、適切な指示を受けている。また必要に応じて訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを記録し、職員同士情報を共有し、定期的な誘導や声掛けを行い、可能な限り自力でできるよう促している。	日中自立している方は9人で、オムツ使用は5人である。失敗した時は、「部屋でテレビ見よう」等と居室に誘導し、交換している。夜間は睡眠を重視し、時間的な声掛けはしていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については日々排泄確認を行い記録している。そして水分摂取や運動を促し、個人の状態に合わせ必要に応じ主治医に報告し、指示を仰ぎ、下剤・坐薬などを使用している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の入浴希望日や時間帯を聞き、週2回行っている。また、全介助の方には職員2名で一般浴を実施している。	浴室、脱衣所は床暖房である。重度の方の2人介助で、浴槽に入ることができる。拒否の方は無理強いせず、職員が交互に穏やかに声がけし、入浴に繋げている。シャンプー等は各自好みの物を使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣や状況に応じてベットまたは畳を選択できるように支援している。また、利用者様の身体状態に応じて電動ベットやエアーマットを利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬内容表のファイル・薬手帳を活用し、副作用・用法が確認できるようにしている。また、与薬後は経過観察し異常があれば主治医に連絡し指示を仰ぎ、状態が改善するまで主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月一回利用者との話し合いを行い、希望する献立やしたい事等を聞き取り、楽しみを心待ちするような状況を作っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年は個人の希望を聞き取りドライブレク・食事レクなど季節に応じ計画している。現在はコロナ感染予防の為に自粛しているが、落ち着いたら可能な限りまた楽しんでいただきたいと思う。	例年は週1回ドライブ、月1回外食を行っていたが、コロナ禍で自粛している。4月に車の中から桜を眺め、花見を楽しんだ。天気の良い時にベランダに出て、日光浴をしながら外の空気を吸い気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は職員が管理し、本人が購入を希望された際に使用できるようにしている。また、小遣い帳に金額を記入し家族が定期的に確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話の希望があった際、家族了承の上、通話支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるようエアコンや空気清浄機・加湿器等を使用して室温を調整している。また、四季折々の壁飾り等利用者と職員が協力して作品を掲示して季節感を出し室内ではあるが四季を堪能できるようにしている。	ホーム内は床暖房である。空気清浄器と加湿器がある。リビングに入居者と職員で飾り付けた、クリスマスツリーがある。入居者の習字が壁に飾ってある。訪問時、リビングから入居者の元気な歌声と笑い声が聞えていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼休みや体調不良時等、本人希望の際は自室にて過ごせるよう支援している。また、リビングでは皆で歌ったり、軽運動などをして気分転換を図っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活する上で不自由がないよう、家具の配置を変えたり、立ち上がりが困難な方には手すりのしっかりした電動ベッドの使用等を提案している。また、家族との写真を壁に飾っている。	冷暖房完備で、ベッドとクローゼットが備え付けである。ほとんどの入居者が、家族の写真を飾っている。動物のぬいぐるみに名前を付けて呼び、ベッドの脇等に置き過ごしている方がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状態に応じて手引き歩行や自走型の車イスの使用等で移動時見守りを行っている。また、状況によりリビングのテーブル席の配置替えも行っている。		